

学校経営のポイント

限られた財源範囲の“事業仕分け作業”

若井 彌一

新しい試みとしては、新設の「行政刷新会議」によって次年度予算編成過程の一環として、「事業仕分け」が11月11日から17日にわたって行われた。

直接影響を受けないという立場の人々には、一刀両断の如くバサバサと切り捨てていく事業仕分けの様子を、痛快な気分でテレビ観戦した視聴者もいたに違いない。

行政刷新会議の設置目的

何事も、新しい試みである場合には、人々の関心が集まる。今回の事業仕分けの試みもそうであった。事業仕分けの会場に足を運んだ人々や、テレビ視聴した人々の印象・感想が肯定的と否定的に割れたのも当然であった。新聞等でニュースや解説を読んだ人々の反応も、同様であろう。

テレビで、主演役者も交代して人々を楽しませてくれている人気番組「水戸黄門」の場合には、筋書きがわかりやすく、悪事を働いた者たちが、毎回、最後には天下の副将軍・水戸黄門とその用心棒役によってやつつけられてひれ伏すという流れになっており、視聴者は、筋書きを知りつつも、「ああ、よかった!」とスッキリした気分になる。

理不尽ないじめや仕打ちに苦しんでいる人々が救われることで、おそらく視聴者は、次の回も、と期待をもつのであろう。

ところで、行政刷新会議はどんな存在か。この組織は、本年9月18日に、閣議決定によって内閣府に設置された機関であり、その目的は、国の予算、

制度その他国の行政全般のあり方を刷新するとともに、国と地方公共団体および民間の役割のあり方の見直しを行うことにある。

今回、国民の目に訴える方法で事業仕分けの様子が知らされたのは、ひとつの試みとしては、たしかに斬新なものである。

より品格のある、細かな詰めが課題か

そうはいっても、今回のような生々しいドラマさながらのやりとりが今後も続けられるのでは、国民の側からも批判が強まるであろう。

教育関連の事業仕分けに限ったことではないが、いかにも最初に結論ありきのやりとりが強烈な印象を与えたはずである。こんなに一方的・一面的に決めつけてよいものか。疑問を抱いた人々も少なからずいたことであろう。

なるほど、「食育」に関する冊子のように、内容重複が経費の効率的な配分・執行という観点からは見直しが必要と思われる事例もあるが、そのように無駄が明らかと思われるような事業例ばかりではない。

痛快に切り捨てればよいというものではない。

権限を握っている立場の発言が、一方的に結論となるのではなく、「なるほど、こんな説明の仕方・反論の仕方があるのか」という、品位のある高度な交渉の仕方を国民に示してくれることを期待したい。

(わかい・やいち = 上越教育大学長)

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●最新刊好評発売中!

浅野良一【編】 A5判 204頁・定価 2,415円 教育開発研究所

『学校におけるOJTの効果的な進め方』

『スーパー教職大学院発進!』 A5判 280頁・定価 2,520円